三春中学校だより

第 25 号

発行日 令和 元 年 8 月 9 日
発行所 三春町立三春中学校

電　話 0247-62-2181 ＦＡＸ 0247-62-6978
E-mail　miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【仲間と共に、扇風機と共に！　～合唱部合宿に出発しました。～】

８月８日（木）、生徒昇降口前広場に合唱部の面々が整列していました。毎年恒例となっている夏合宿への出発式のためでした。女子２列、男子１列、その足下には扇風機３台も整列していました。部長さんの３年生の号令もキリッとしていて、部員の気持ちも表情も引き締まって感じられました。

めざす会場は、『国立磐梯青少年交流の家』。いかに高原の施設とはいえ、今般の酷暑ではやはり暑さ対策は欠かせません。これまでの学校での練習の成果と課題の確認の場、そして、寝食を共にして部員同士が『こころ一つに』合唱曲を歌い上げるための交流の場として大切に過ごしてほしいと思います。

【こんなことも！　～夏には夏の出来事が。～】

校舎裏の土手には百合の花が至る所に咲き誇っています。ヘリコプターが野球場の照明越しに旋回しては去っていきました。入道雲がもくもくと湧き上がったかと思うと夏の夕方には突然の夕立が校舎を包みました。

祭礼、夏祭り、盆踊り、夏期講習、部活動、各種大会・コンクール、今年の夏もいろいろなことがありました。やってきた夏を楽しむと共に、ゆく夏を思う時期となりました。たくさんの思い出を胸に、夏休み明けも、『共に、ひたむきに、そして、こころ豊かに』過ごしましょう。命を輝かせがんばりましょう。

【家族と共に、家族を支えるために！　～特別な支援が必要な子どもと家族を支える。～】

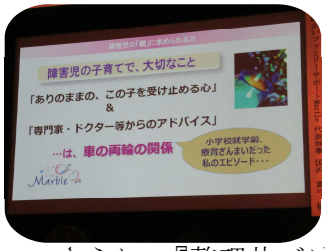
『特別な支援が必要な子どもと家族を支えるために』
～伝える力をアップしよう～

（前号よりの続き）

３　発達障がい児の『親』に求められる力

発達障がい児をもつ親への理解を深めるために、障がい児の親の子育てで日々試される『基本の４つの力』を知ってください。それは、『報告』『依頼』『謝罪』『交渉』の４つの力です。

他に、『情報収集力』もあります。幼稚園、保育園、学校等、医療、療育、福祉サービス、余暇活動等々、子どもや自らのためさまざまな情報を集める力も必要になってきます。また、『プロデュース力』も必要です。集めた情報、それぞれの専門領域からのアドバイスは保護者に集中し、保護者は子どものためにすべてに応えようとして追い詰められ、すべてに応えられずに自信をなくし、自分はダメだと落胆してしまいます。そこで必要なのが、自分に合うものを選び取る『プロデュース力』です。

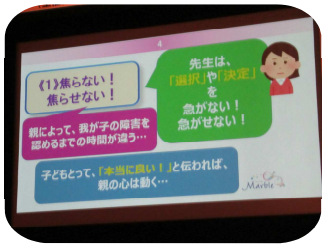


障がい児の子育てで大切なこと、それは、『この子のありのままを受け止める心』と『専門家・ドクター等からのアドバイス』です。この２つを車の両輪として前へ進んでいかなくてはなりません。また、『今を楽しむこと、今を大切にすること』と『自立にむけて将来に備えること』ももう一つの車の両輪です。ここでいう『車の両輪』とは、どちらも大切でありそのバランス次第ではどちらかにかたよって曲がって進んでいってしまう可能性もあることを示しています。

さらに、『整理片づけ力』『トラブル対応力・瞬時の判断力』『セルフコントロール力』『自信をなくさない力』『周囲へ働きかける力』も必要です。ペーパー資料は健常児の子育ての２０倍、トラブル・アクシデントはたくさん起こります。ストレスもたまります。ストレス解消を上手にしなくてはなりません。自分じゃない人が育てればではなく、私の子育てにもきっといい面があるとなれることも大切です。子どものためにとさまざまな関係機関との折衝等もしなくてはなりません。発達障がい児の母親は一般女性の１０倍程度、抑うつリスクが高いという研究結果もあるくらいで

す。とにかくたいへんな状況に直面しながら子育てをしているのです。

４　『親』を支えるために



そのような『親』の状況を前に、支援者や先生方に求められることは、（１）焦らない！焦らせない！、（２）孤立しない！孤立させない！です。

先生や支援者のみなさんからは、「保護者に伝えても響かない。」、「療育・医療につなげたいけどわかってくれない。」、「発達の遅れの状況が伝わらない。」、「障がいを受け入れない親にどう言ったらいいのか。」など、発達障がいをもった子の親に対する訴えがある。

そこで、（１）焦らない！、焦らせない！です。保護者にとってわが子の障がいを『認めるまでの時間』はさまざまなのだということを理解していただきたいのです。子どもの幸せを願わない保護者はいないので、子どもにとって『本当によい！』ということが伝われば保護者の心は動くこともあります。伝える側の『伝える力』も必要です。日頃、謝ることが多い子育てなので、『気にかけてもらっている』というだけでも心にしみる言葉があるものです。

保護者が受け取ってうれしかった言葉かけはというアンケートに、「いつでも相談してね。」「こんなことができるようになりましたよ。」「たいへんだけど一緒に歩んでいきましょう。」「こんな方法を試してみたいですけどどうですか。いい方法を探しましょう。きっとあります。」「お母さん、いつも頑張っていますね。無理しないでね。」などがあったそうです。反対に、辛かった言葉としては、「自立までに〇〇しないとたいへんになる。不幸になる。」「１０歳までが伸びるとき。今やらないと。」「お子さんに向き合ってください。」「甘やかしすぎです。」「神経質過ぎですよ。」「兄弟児は我慢しているから配慮しましょう。」特に、「様子を見てみましょう。」という言葉は、見捨てられたように感じました。何をどう見ていくかを具体的に提示してほしかった。

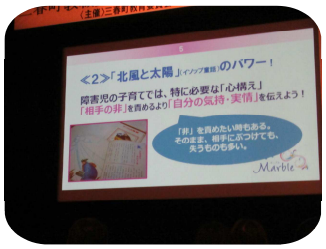
次に、（２）孤立しない！孤立させない！です。親も子どもも先生も孤立しないようにすることが肝心です。子どものことで自信をなくし、誰にも相談できないでいる親の存在に気づくことがスタートです。一人で抱え込んでしまっている親にとって、相談相手、プロデュース・コーディネート役、その思いに寄り添える人の確保は欠かせません。専門機関、医療機関、ペアレントメンター、親の会など、さまざまな頼れる場所、福祉サービス等を活用しましょう。

支援者・先生と発達障がい児の親とは、子どものためにもしっかり連携をとっていきたいものです。双方の思いや願いが行き違いとならないためにも、『伝える力』はとても大切です。

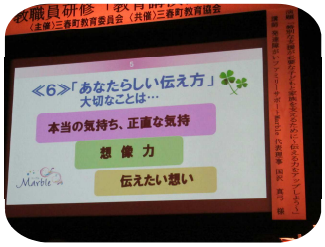
５　『伝える力』を伸ばそう！

あなたらしい伝え方で相互理解を促進していくためには、

（１）『ボキャブラリー』を増やそう！：『ことわざ』『擬音語』、状態に形容詞を加えて表現するなどの工夫をしてみましょう。（２）『北風と太陽』のパワーを生かそう！：『非』を責めたいときもありますが、そのまま相手にぶつけても失うものも多いものです。『相手の非』を責めるより『自分の気持ちや実情』を丁寧に伝えましょう。歓迎されている・されていないの雰囲気は伝わるものです。（３）『プラス』→『マイナス』→『プラス』のサンドイッチ方式を心がけよう！：保護者は、また子どものことで何か言われるのではという恐怖心をもってしまうものです。それを取り除いてあげましょう。保護者自体がそれで救われます。（４）『ノンバーバルコミュニケーション（非言語コミュニケーション）』のパワーを生かそう！：姿勢、服装、髪型でその人の印象はかわります。『好き・嫌い』『苦手』という思いは、視線や声のトーン、仕草等で伝わってしまいます。『嘘をついている』『本心じゃない』ということも、視線、声のトーン、仕草等で伝わってしまいます。言葉以外の伝え方にも配慮しましょう。（５）『笑顔』『ユーモア』のパワーを生かそう！：『笑顔』は、物事を前向きに考えさせ、今自分が何をしたらいいのかについて考えさせ、自律神経を整えてくれます。『ユーモア』は、相手に聞く耳をもたせ、場の空気を柔らかなものにしてくれます。『笑顔』のポイントは、眉間にしわをなくし、口角をあげることです。（６）『あなたらしい伝え方』のために大切なことは：本当の気持ち、正直な気持ち、どうしたら相手に伝わるかということを想像する力であり、伝えたいという思いだと思います。



６　ラストメッセージ『息子の障害が判った日の空』



障がいのある子どももない子どもも、子育てをしている親にとってきっとかわらぬ『想い』というものがあると思います。そんな想いが伝われば…。また、『こんな伝え方もあるんだ』ということも感じていただければうれしいです。

伝えたいことを、伝えられるときに、伝えることの大切さを心に、さまざまな人が混じり合い、互いに尊重し合う社会がくることを心より願います。

このご講演を通して感じたこと。それは、発達障がいという障がいをもった子どもさんと共に歩んできたご家族のこれまでに接し、それはご家族にとっても共生社会の実現にとってもかけがえのない日々であったこと。ご家族や社会はそのような子どもさんからたくさんのことを学ばせてもらったということを強く感じました。一人ひとりの命はかけがえがなく、大切なものであり、すべての人間が相互に尊重し合いながら心安らかに日々を送ることができる社会をみんなで作っていけたらと心から思いました。